

井草会報

2004
No.37

発行 井草会・会報委員会
練馬区上石神井2-2-43
東京都立井草高等学校内

母校改革のプランを練り上げ、そして実施に移された前校長 梅村和伸先生から、現況についてお書きいただきましたので、皆様にご報告いたします。私たちも母校存続と発展の願いを込めて、できる限りの支援をしていきたいと思います。

「魅力ある学校づくりに一層力を込めて」



日頃より、本校の教育に対しましてご理解とご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。お蔭様で、教育諸活動が順調に遂行でき、生徒も日々活発に学習、部活動、行事等に取り組んでおります。

ご承知の通り、現在各都立高校では自校の特色を鮮明に打ち出し、都民の方々から選ばれる学校づくりに腐心しているところであります。本校は練馬区を中心に3地区（旧「学区」）そして周辺区・市部在住の方々から温かい目を向けていただいているところであります。そのことが、本年1月に実施されました中学生の進学調査におきまして、全都的には厳しい状況にある中で、本校は前回に比し、本校受験希望者の増加が見られると報告されております。このことは大変に嬉しいことであり、今年度に向け良いスタートが切れたのではないかと考えております。

本校は平成15年度から、都の「重点支援校」（学校の特色的具現化に向けた努力に対して都が支援する学校）の指定を受け、支援校実施プランのもと本校としての特色をより鮮明にし、その実施に努めてまいりました。

その中で、例えば、進学校としての要請にきちんと応えていくための進学土曜補習を、同窓会のご支援をいただいて開講いたしました。「入試突破実力養成講座」を一層拡充していく

皆様、今年度も母校支援にお力添えを！！

☆☆☆ 平成15年度「母校支援金」報告とお願い！

井草が重点支援校となり、学力養成と国際交流の特色を方針として掲げスタートしました。国際交流交歓や体育祭・井草祭等学校行事に参加・見学して、校内が一段と明るく活気づいていた1年でした。36号会報でお願いをいたしました母校支援金は、お蔭様で初年度目標額50万円（500,401円）を達成することができました。個人のご寄付に加えて、同窓会会場・井草祭等での写真家 甘楽美登利（9D）さんの諸作品のご提供やクラス会での呼びかけ等々、会員の皆さまの母校支援の情熱とご厚情の賜物と感謝いたします。

目 次

井草の現況と母校支援のお願い	P 1
井草会活動報告	P 2
キャンパスニュース	P 3
O B・OGインタビュー(南部 正光さん)	P 4

恩師の便り(加藤 成伸先生)	P 5
仲間からの便り	P 6
同窓会・クラス会報告	P 7
井草会掲示板、寄付者名簿、新HP	P 8

いと考えております。

また、本校の特色のひとつに「国際理解教育・国際交流」を加え、その実践に努めております。平成15年6月にはアメリカから19名の生徒と2名の先生をお迎えし、国際交流を行いました。本年3月には、本校から20名の生徒がアメリカに留学し、視野を広げて帰国してくれました。この国際交流事業に対しましても、物心両面にわたる温かい心のこもったご支援をいただきましたことに対しまして、この紙面をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。

「重点支援校」になりましたことに伴いまして、教員の人事異動に関して、広く全都から本校の特色に賛同し、意欲のある教員を募集することができる公募制校になりました。この制度によって、意欲のある優れた人材を迎えて、本校の教育をより一層活性化し、生徒の個性の伸張、学力の向上を図るべく努力してまいります。

平成16年度には「重点支援校」の2年目となり、新たな局面を迎える、大きく飛躍しなければならないと意を一層強くしているところであります。同窓会におかれましては、今までと同様、ご指摘と温かいご支援をいただけますようお願い申し上げますとともに、同窓会のますますのご発展を祈念いたしまして、本校の現状報告とさせていただきます。

振込先：東京三菱銀行恵比寿支店

普通預金 1466396

口座名 「井草会母校支援金」

広報委員長 隆野 豊子（1）

井草会活動報告



ご挨拶

会長 遠矢良隆 (6A)

今年度から新役員体制でスタートしました。多くの卒業生が「同窓会」と言う組織を通じて知り合い、語り合うことが

できるよう引き続き努力して参ります。幸いにも母校は、都が進める学校改革のための「重点支援校」15校の中に入ることができました。昨年度から「国際交流」と「進学率向上」を柱とした特色のある『井草高校』づくりが積極的に進められていますが、成果は3年以内にあげることが求められています。同窓会も、岐路に立つ母校のために、募金をはじめできる限りの支援活動を開始しましたので、是非ご協力をお願いいたします。

今期も役員一同、会員の皆様の期待に応えるべく、全力を尽くして参ります。

平成16・17年度 井草会役員・理事

会長	遠矢良隆 6A			
事務局	◎大西久江 5E	大草和子 9D	武田好永 9E	
	安田 忠 21G(兼)			
会計	◎村上俊雄 25E	◎岡安敏子 4F		
監事	西田 実 17B	久米浩一 26D		
広報	◎隆野豊子 1	岡安敏子 4F(兼)	瀬尾行弘 8B(兼)	
	△前島一夫 8D	原 京 14G	名方幸彦 22I	
	原田美幸 24D			
名簿・会費	◎新井雅晴 13D	谷 恒子 2A	▲渡辺 旭 2B	
	金沢美保子 3B	鈴木安江 3E	平岩允理子 6C	
	山口淳子 7E	△津江慎弥 10E	西田 実 17B(兼)	
	鈴木善雄 20F			
会報	◎中村 公 3E	藤田菖蒲 3E	△瀬尾行弘 8B	
	吉村弘文 8C	織部千恵子 8E	浅賀捷代 10B	
	野口 篤 10D	中村啓子 18E	▲植木 謙 21D	
(インターネット)	○西田 実 17B	覚田純子 21G	井上晴夫 24D	
事業	◎安田 忠 21G	畠中千代子 3D	福嶋盈子 3D	
	△谷 明 7D	矢野正敏 8E	高橋悠治 9A	
	渡辺正義 9C	田村治彦 10A	横沢景彦 10D	
	谷口知栄子 11F	望月裕允 13A	岡部隆行 13E	
	横山喜久江 14G	△島田俊明 20A	陶山洋子 21I	
	日野裕子 23F	古屋純子 23I		
(クラブ推進)				
	○安田 忠 21G(兼)	丸山 隆 13D	月岡健一 17G	
(同窓会)	○森井 出 17E	木村忠正 9D	大西久江 5E(兼)	
	遠矢良隆 6A(兼)	杉浦忍生 6B	平岩允理子 6C(兼)	
	中西利一郎 8D	林 一雄 10C	熊谷和子 15F	
	笹本亜矢香 56A	富岡正博 56A	川上一樹 56B	
	佐藤一美 56B	丹野智子 56C	橋爪 聰 56C	
	住友紗季 56D	瀬間隆一 56D	高橋 達 56E	
	吉川敦子 56E	有川真由 56F	奈良啓介 56F	
	沖野匡則 56G	村上 葵 56G		

(注) ◎(委員長)、○(長)、△(補佐)、▲(委員会会計) は常任理事。



合同委員会風景

幹事総会報告

6月13日(日) 14時から委任状を含む328名の出席者(定足数: 委任状を含む50名以上の出席で総会は成立します)により総会が開催されました。

当日は、山下 貢 名誉会長(新校長)と山本慎一 新事務長が出席され、新任のご挨拶と母校の現況をお話しいただきました。引き続き、13時からの常任委員会で承認された下記案件が討議され、原案通り議決されました。

① 平成15年度業務報告・決算報告・監査報告の3案

② 平成16/17年度役員・理事改選案

③ 平成16年度業務計画・予算案

議事についての概要報告

①昨年度から始めた母校支援は、今年度も最優先で推進すること。年会費の納入促進のためキャンペーンを実施すること。クラス会等への援助は前年度通り継続すること等を決議しました。

②15年度新卒者の中に、若干名入会金の不同意者がありました。現会則上は卒業生全員が会員対象者なので、今後この取り扱いを協議することになりました。

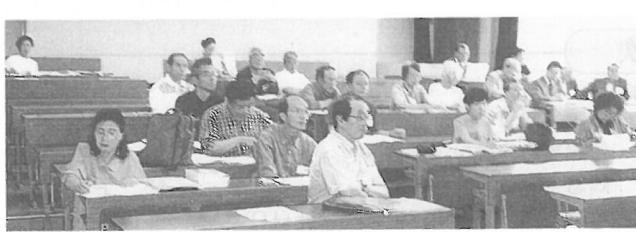
井草会 平成15年度決算・平成16年度予算

		15年度予算	15年度決算	16年度予算
収入	縦 越 金	2,232,059	2,232,059	1,180,863
	入 会 金	1,095,160	1,095,160	1,011,160
	会 費 収 入	3,500,000	3,256,120	3,400,000
	寄 付 金 収 入	500,000	335,000	400,000
	母 校 支 援 金 寄 付 収 入		500,000	500,000
	雜 収 入	5,000	27,817	5,000
	収 入 合 計	7,332,219	7,446,156	6,497,023
支出	会 報 委 員 会 費	2,550,000	2,266,980	2,600,000
	会 報 発 行 費	(2,450,000)	(2,263,200)	(2,500,000)
	イ ン タ ネ ッ プ 活 動 費	(100,000)	(3,780)	(100,000)
	名 簿・会 費 委 員 会 費	200,000	104,089	200,000
	事 業 委 員 会 費	1,150,000	935,671	1,250,000
	井 草 祭 等 事 業 費	(450,000)	(201,891)	(350,000)
	同 窓 会・ク ラ ス 会 等 援 助 費	(700,000)	(733,780)	(700,000)
	同 窓 会 開 催 準 備 費	*****	*****	(200,000)
	同 窓 会 開 催 行 委 員 会 費	800,000	673,935	*****
	広 報 委 員 会 費	200,000	200,000	500,000
	事 務 担 当 費	120,000	99,158	120,000
	予 算・決 算 担 当 費	30,000	10,780	30,000
	理 事 会・委 員 会・幹 事 会 費	550,000	278,827	550,000
	事 業 支 出 項 目 小 計	5,600,000	4,569,440	5,250,000
	母 校 支 援 金	500,000	500,000	500,000
	事 業 所 開 設 準 備 金	1,000,000	1,000,000	500,000
	予 備 費	232,219	195,853	247,023
	次 年 度 總 越 金	*****	1,180,863	*****
	支 出 合 計	7,332,219	7,446,156	6,497,023

紙面の都合上、支出勘定科目は、大科目のみ表示しております。

財産目録 (平成16年3月31日現在)

次回名簿積立金	700,000 (平成12~13年度分)
井草会事務所開設準備金	12,000,000 (平成6~15年度分)
積立金・準備金合計	12,700,000



総会風景

* * * キャンパスニュース * * *

2003年度進路状況：合格者数（既卒者、推薦入学者を含む）

資料（進路指導部 川副 聰先生）

国公立大学10名 千葉大2 山形大、宇都宮大、東京農工大、東京学芸大、東京海洋大、筑波大、鉢路公大、都立科技大 各1名。
 私立大学306名 日大23、東洋大17、成蹊大13、十文字学園女子大10、法政大10、武蔵大10、青山学院大9、中央大9、東京電機大8、明治大8、学習院大6、工学院大6、東京経済大6、東京理科大6、武蔵野大6、立教大6。駒沢大ほか5校 各5名。大妻女子大ほか7校 各4名。北里大ほか7校 各3名。神奈川大ほか15校 各2名。共立大ほか35校 各1名。
 短期大学24名。専門学校45名。



「井草高校国際交流」 初めての米国訪問

副校长 佐藤光一

「井草で培う視野は世界を」をスローガンに井草高校は、平成15年度から東京都の重点支援校に指定されました。その柱の一つである第一回国際交流は、平成15年6月15日～29日、米国ワシントン州、コロラド州、カリフォルニア州、3州の10の高校より教師2名、生徒19名を受け入れました。生徒全員がホームステイで全ての授業を受講するという画期的な内容で実施しました。その他としては、都庁を表敬訪問、近隣の杉並工業高校、農芸高校、第四商業高校を見学、また同窓会からは岡安敏子（高校4回）さんの指導による茶道など、盛りだくさんな内容でしたが、成功裏に終えることができました。

第二回国際交流は、平成16年3月26日～4月5日、私と池田主幹が生徒20名を率い、米国ワシントン州を訪問しました。生徒20名は、ケント市を中心とした5つの公立高校に派遣され、全ての授業を受講すると共に、ホームステイによりアメリカの生活を体験しました。井草校生の授業を受ける姿勢、ホームステイでの生活態度などは、高い評価を得ました。英会話をはじめとした事前指導に時間を多くかけた成果でもありました。帰りのタコマ空港では、英語での会話が飛び交い、ホストファミリーとの別れを惜しむ姿が印象的でした。

短い期間ではありましたが、「井草高校国際交流」初めての米国訪問は、大きな成果を挙げることができました。当初の目的である異文化の理解、受講による教育の違いの学習、英語力の向上などを達成して帰国することができました。生徒も大満足で、その顔には自信と意欲が溢れていました。今後の彼らの飛躍と学校への良い影響が大いに期待されます。

なお、この国際交流は、遠矢会長をはじめ同窓会の皆様の絶大なる支援をいただき実施することができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。第三回国際交流は平成16年6月18日～30日、教師1名、生徒15名を米国から受け入れました。今後とも引き続き理解いただき、ご支援いただきまますようよろしくお願い申し上げます。



来日学生の茶道教室



ワシントン州ケント市における日米高校生交歓風景



ご挨拶

新校長 山下 貢

この度、都立八王子高陵高等学校から異動して参りました山下 貢です。本校は、昨年度から「重点支援校」として、生徒の進路実現や国際交流事業などを特色とする教育活動を進めています。重点支援校として、2年目が「潮目」となる非常に重要な年度です。全教職員挙げて、生徒が望む進路実現を果たし、国際交流を通して視野の広い人材育成に努めます。ご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

先生等の異動

転 入		転 出			
氏 名	教 科	前任校	氏 名	教 科	異動先
山下 貢	校 長	八王子高陵	梅村和伸	校 長	退職
三谷愛子	国 語	小金井北	内山貴子	国 語	第四商
相川恵子	国 語	第四商	服部玲子	国 語	久留米西
片桐秀一	地 理	広尾	樋口兼久	地 理	日野
福田元昭	日本史	小金井北	瀬川康兼	日本史	日野
青野弘一	倫 理	江戸川	宮澤真二	倫 理	清瀬
田村克之	数 学	鷺宮	浜詰 均	数 学	富士
矢部真吾	数 学	小笠原	香取良平	数 学	文京
鈴木裕司	物 理	東村山西	井田屋文夫	物 理	戸山
川崎洋子	生 物	紅葉川	伊勢俊郎	生 物	高島
井上充司	保 体	世田谷泉	鹿俣 聰	保 体	小金井工
柳浦康宏	保 体	農業	鈴木裕太	保 体	農芸
田嶋英治	英 語	石神井	山本孝二	英 語	向丘
松澤郁文	英 語	昭和	松内晴美	英 語	田無
板垣厚子	英 語	清瀬	渡部千明	英 語	三鷹
穂坂聰子	英 語	板橋	長田光子	家 庭	赤坂
鶴澤 裕	家 庭	杉並工	渡辺美弥子	理 科	田無工
鈴木史子	理 科	大泉			
山本慎一	事務長	大泉学園	内山信弘	事務長	退職

恩師の訃報

謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

井上 武三先生（理科）（昭和38～44年） 平成15年7月15日 没
 真田 幸男先生（校長）（昭和30～36年） 平成15年11月24日 没
 西野清太郎先生（数学）（昭和33～45年） 平成16年3月17日 没
 渡辺 浩先生（国語）（昭和40～43年） 平成16年6月1日 没

OB・OGインタビュー

なんぶまさてる
南部 正光さん (S33卒・10回B組)

東北大学教育学部教育学科及び工学研究科鉱山工学専攻の修士コースを卒業後、大学の研究室に入られました。鉱山地質学の研究から軽量骨材の研究に発展させ、遂に別の分野の水に浮く軽量コンクリートの実現の夢を果たされました。これは、同じ東北大学の後輩でノーベル賞受賞の田中耕一さんが大学時代での研究を発展させて他の分野で、見事花を咲かされた研究と相通するものがあります。



Q. 高校時代の懐かしい思い出、クラブ活動の剣道部のことなど、印象に残っている話がありましたら、お聞かせ下さい。

A. 高校2年の時、生徒会長をしていましたが、サッカー部が東京代表で東日本大会に出場したことを鮮烈に覚えています。残念ながら、優勝した浦和西高校に負けてしました。また、3年の時には東京代表で国体に出場しました。京都の山城高校と0:0でしたが、コントロールで負ってしまいました。また女子のハンドボール部は伝統的に強かったです。運動部員は荒っぽく見えるけれど、男気があり、皆良い連中でした。当時は、まだ日本中が貧しく、個人で剣道の面や胴を買うことが出来ませんでした。面は部の面を共用していましたので、他人の汗のにおいがひどかったことを思い出します。それでも、練習が始まれば、においのことを忘れてしまいます。今は、全て懐かしい思い出です。

Q. 東北大学を志望された理由と研究テーマについては？

A. 私をここまで導いてくれたのは、担任の先生方でした。そういうわけで、小、中、高いいずれかの先生になりたかったのです。浪人している時に、「努力が出来ること」は才能の一つで、私は「熱中することは出来ても、努力を積み重ねることが嫌い」なタイプの人間であることが分かりました。だから、自分の実力で合格できるのは東北大学と考えて、決めました。大学4年の10月に、ある高等学校に教師として就職が内定していましたが、卒業論文がまとまり始めた頃、「この程度の実力で先生になるのは許されない。せめて修士コース位の実力を身につけよう」と思い、補欠募集に合格して大学院に進みました。その頃、若手研究者として注目され始めたことから、指導教授から大学に残るように言われました。大学生を教えることも初心を大きく外れることにはならないと思い、大学に残りました。

私の専門は鉱山地質学という分野で、金属鉱床がどのような環境で生成したかを解明し、その研究結果をもとに鉱床を探査する分野です。大学に助手として残った頃、日本の鉱山は、次々閉山してきました。そこで、サブワークとして、「人工軽量骨材（軽い砂利）」や「泡ガラス（軽い断熱建材）」の研究を始めました。その頃の製品は品質が悪く、どうしたら品質を高めることができるかということ

に興味を持ち、研究しました。本当の専門は鉱物中の流体包有物という分野で、天然の鉱物が成長すると、その鉱物を成長させた水が鉱物中に残っています。これを流体包有物と言います。殆どの流体包有物は10ミクロン（1mmの100分の1）以下で、化学分析は成功していませんでした。化学分析が出来れば、どのような化学組成の水が鉱物を成長させたかが分かり、何億年も昔の地球の地中の様子が分かることになります。34歳の時に世界で初めて、この分析に成功しました。地質学や物理学の分野で、海外では評価されましたが、残念ながら日本では評価されませんでした。日本では繩張り意識が強いからかもしれません。

Q. 軽量コンクリートの研究へのきっかけと現在の研究状況は？

A. コンクリートは、セメントと骨材（砂利）と水を混練し、これを養生・硬化させたものです。骨材はコンクリートの中で約70%の体積を占めています。ですから、コンクリートは殆ど砂利であると考えてもよいわけです。従って、骨材の性質を変えればコンクリートの性質を簡単に変えることが出来ます。骨材として発泡スチロールを使用すれば、軽いコンクリートが出来、水に浮かせることも出来ます。ところが発泡スチロールは強度が小さいので、コンクリートの強度も小さくなってしまいます。強度の大きい無機物質を原料として、比重0.7程度の発泡体を作れば水に浮くコンクリートが出来るわけです。

無機の発泡した砂利を「軽量骨材」といいます。ガラスを粉にして発泡剤を均質に混合し、加熱していくと、はじめに緻密化して発泡剤が完全に取り込まれます。更に高温になるとガラス全体が軟化と同時にガスが発生するので、均質な泡を作ることが出来ます。泡の形はほぼ球形になるので、強度も大きいし、水も吸わなくなります。窓ガラスや壇ガラスを原料にするとガラス自体の強度が小さいので強度の大きい骨材は出来ません。一方、天然の岩石の中には90%程度がガラスでできているものがあり、このガラスの強度は窓ガラスの2倍もあります。そこでこれを原料として軽量骨材を製造する技術を開発しました。これは、東北大学在職の30歳の頃です。セメント会社に転職して、この技術の実用化の試験とテストプラントでの製造と販売を始めました。強度は従来品の2倍、吸水率は10分の1という高性能を実現しました。比重が、1.2のものを中心に

製造し、各地のコンクリート橋梁に使用しました。その結果、施工費が5%程度安くなることがわかりました。その理由は、コンクリートが軽くなるので、①基礎工事費が安くなる、②工事用の重機が小型のものですむ、③鉄筋やセメントの使用量も少なくなる、などのためです。

ところが、バブル崩壊のため、本格的な製造設備への資本投入が不可能となり、このプロジェクトは中止しています。世界で一番高性能の軽量骨材を開発しておりますので、市場性は充分にあり、この軽量骨材を製造するために設備投資をする企業が出てくれれば、先が楽しみになります。

なお、比重が0.7程度の軽量骨材を製造するのは簡単ですから、水に浮くコンクリートは簡単に実現出来ます。骨材は体積単位で販売するので、比重1.2の骨材の半分近い費用で製造出来ます。しかしこの軽量骨材は、現在市場が小さいので実用化はまだ先になります。

Q. これからの研究目標については？

A. 廃棄物の処理と有効利用に関する研究を行なっていますので、この研究を更に深めていきたいと思っています。今年から、東京理科大学で「理科教育論」を担当することになりました。楽しい理科教育の仕方を教えたいと思っています。

Q. 趣味と余暇の楽しみについては？

A. 趣味はものをつくること、具体的にはアンプ・無線機の組み立て、日曜大工（家具を作ること、家の改造）、クラシック音楽を聞くこと、海外旅行をすることです。英語とスペイン語を少々話すので、ホテルも予約せず、気ままに旅行するのが楽しみです。



本日はお忙しい所、専門的なお話を分かりやすくご説明頂き、誠にありがとうございました。今後もいろいろな分野での研究を続けられ、ご活躍されると確信しております。

インタビュアー：吉村 弘文（8C）

文責：野口 篤（10D）

恩師の便り

井草への断片的回想

加藤成伸先生（社会科 昭51年～平3年）

新入生を迎えた4月、学校は八重桜に美しく装われるときでした。学校前の道路が渋滞するといわれるほどに、華やかに咲き誇る八重桜でした。井草の八重桜の華麗さは、今も脳裏に刻まれたままです。赴任した当時の井草は、全国に波及した学園紛争の余燐が、まだくすぶっていた頃で、ときに緊張する場面もありました。旧制女学校時から教鞭をとられたご年配の先生方も健在で、異彩を放っていたのが印象的でした。

在職時は、学校群からグループ制に変更されたり、校舎の改築があつたり、井草が変貌する時でもありました。開校以来の古びた木造校舎が解体されたのもこの時でした。社会科教員室も置かれていた建物だけに、消え去るのは寂しい限りでした。

学校周辺は屋敷林に囲まれた農家や農地も残された近郊で、静寂さが戻る授業時には、時折、チョットコイ、チョットコイと小綏鶏の甲高い鳴声も聞こえる田園的な環境でした。

毎年、変わり映えのしない学校生活でしたが、文化祭・体育祭が到来すると、自由と自主の伝統を担う生徒会が、主導権を發揮して全校が盛り上がり、校内には熱気の漲る日々が続いたものです。

井草の思い出も、年の経過とともに次第に遠退いてきました



井草の八重桜

が、乗ることも少なくなった西武電車が上石神井、上井草の駅に近付くと、浮き立つ思いになり、井草での遠い日々が断片的ながら懐かしく蘇ります。

老いの坂にかかる今は、ほどほどの健康が何よりと感じる日々です。同窓生の方々のご活躍、ご健康を念じます。



昔の井草の校庭からの風景

—— 仲間からの便り ——

ハガキ・一言通信・メールなどに寄せられたメッセージをお届けします。

☆大久保(更科)京子さん (S20卒・高女1)

平成15年4月21日、1期生の同期会に久しぶりに出席させていただき、皆様75歳とも思えない若さで活躍なさっておられ、心強く思いました。

☆大谷(吉見)典子さん (S20卒・高女1)

会報36号を拝見して、仮校舎で出発した1年生だけの学校の大変さと、また違った「大変」があるのですね。井草で学ぶ仲間が増え続けますように。

☆小堀(吉塚)栄子さん (S31卒・8B)

平成14年秋、同級生の生川ヤス子さんが亡くなられ、井草の校歌でお送りしました。家庭でも、地域でも、いつも優しかった彼女の冥福を、お祈りしたいと思います。享年65歳でした。

☆嶋田 勝さん (S35卒・12F)

40数年の無沙汰をお許しください。インターネットで「井草会」を知りました。弟子丸 千一郎(12E)氏の話など懐かしく、青春を感じています。

☆内堀(大村)田鶴子さん (S36卒・13C)

会報36号で書道の中村 直之先生の訃報に接しました。卒業後、しばらくの間、谷中のお宅にお稽古に通いましたが、挫折しました。剣豪のような、厳しい面影を懐かしく思い出します。

☆永井 直実さん (S39卒・16C)

私が母から受けた絶対音感という至上の宝物。この能力が校歌CD制作時のピアノ調律に少しでも活かせたことが、人生最大の喜びとなりました。本当にありがとうございました。

☆望月 秀明さん (S43卒・20D)

昨晩(H15.8.23)、大槻 秀元(5E)氏のコンサートに行ってきました。ハリのある歌声にイタリアの空気が感じられ、大変に幸せな気持ちにさせて頂きました。どうも有り難うございました。

☆永井(船越)和代さん (S44卒・21F)

いつも会報有難うございます。卒業してから一度も母校に行つていませんが、今度、八重桜の季節に訪れようと思っています。



☆大谷(高木)こずえさん (S52卒・29H)

8年前に横浜から越しました。自宅にて「トールペイントの教室」を開いていたところ、2年先輩が生徒さんとしてみました。全然面識がなかったのですが、同窓であることがわかりびっくりしました。彼女の主人も同窓です。また隣の小学校のPTA副会長をしている方も同窓で、同期であることも分かりました。息子が高校1年生の時の同級生の母親も、やはり井草の同窓でした。なんだか、井草が呼んでいるみたいです。

☆山村(今井)寛子さん (S53卒・30D)

早いもので子供が中学生になりました。今年は、高校見学と称して井草祭に連れて行こうかと思っています。

☆姉歯 晓さん (S53卒・30E)

住所が変わりましたので、あるいは行方不明者のなかに入っているのではないかと思います。1998年にイギリスでの在外研究を終えて帰国しました。現在、大妻女子大学社会情報学部で教員をしております。夫婦別姓ですので氏名等は変わっておりません。

HP : <http://www.sis.otsuma.ac.jp/~aneha/>

☆林 亮太さん (S55卒・32D)

偶然に都立井草高校のホームページに辿り着き、井草会の活動内容を拝見させていただきました。20年近く前に転居しており、恐らく住所不明者に入っていることと思われます。今後、機会がありましたら是非同窓会などに出席したいと思っております。

☆北原(与倉)輝美さん (S56卒・33G)

いつもお世話になり、ありがとうございます。
この春、友人の息子さんが井草に入学したと聞き、とてもうれしく思っています。

☆宮澤 敦子さん (H10卒・50F)

引越しをして住所が変わりました。お便りが届くたびに懐かしいなあと感じつつも振り返る余裕もなく、只黙々と前に進むだけの日々を過ごしています(?) 最近すぐ不景気のせいにして怒ったり、悲しんだり忙しいですが、とにかく前向きに明るく元気にがんばります。





2003同窓会 平成15年8月30日（土）
新宿京王プラザホテルに於いて。



2003同窓会を祝し、高校吹奏楽部の熱演。



13回同期会 平成15年8月30日（土）京王プラザ 11年ぶりの再会。藤波、大浦先生と6クラス64名。



19回I組 平成15年8月31日（日）
そば処『中屋敷』大隅 芳秋先生を囲んで。

同窓会 クラス会 報告



31回G組 平成15年11月29日（土）
池袋『パサル』 卒業24年、11年ぶりの
クラス会。小川先生と26名で。



26回同期会 平成15年8月30日（土）新宿エステック情報ビル 植田、広川、柳先生と86名の仲間が集う。

紙面の都合上掲載できなかった同期会、クラス会等の集会につきましては、インターネットの井草会ホームページ上でご覧いただけます。

井草会援助金制度のご案内

同期会、クラス会、OB・OG会等の会合に対しての援助金制度を設けていますので、どうぞご利用ください。ただし、事前申請してご利用ください。

制度の概要：

1. 適用人数基準 同期会(30名以上)、OB・OG会、恩師を囲む会、クラス会(15名以上)。65歳以上のクラス会(10名以上)。
2. 利用回数 1年に1回限り。
3. 援助額 一人当たり千円。援助限度額：クラス会(3万円)、その他(5万円)。
4. 事前申込み手続き ハガキに目的、人数、実施予定日、幹事名、「援助金希望」と明記し、下記宛に提出(事後申請は不可)。
5. 援助金申請手続き：行事終了後、①援助金申請書 ②参加者名簿(氏名、住所、電話番号) ③写真(当日全員)
④報告書(400字以内) ⑤振込先 申請書に記入し提出して下さい。

問い合わせ・申込先：事業委員会(援助金担当者) 島田俊明

〒177-0044 東京都練馬区上石神井2-1-15-307 TEL/FAX 03-5934-0440

なお、H15年度には26件のクラス会などの集会で利用されました(支払総額約73万円でした)。

井草会掲示板

2005同窓会へ向けて

来年は、2005同窓会が開催されます。大勢の皆様のご参加を心よりお待ちしています。

記念学年は、高校5・6回（古希）、15・16回（還暦）、27・28回（卒業30年）と56・57回（新入会）です。同期会、クラス会、クラブ活動のO B・O G会の幹事の方、2005同窓会への参加呼びかけを、よろしくお願ひいたします。

事業委員会同窓会担当 森井 出 (17E)

秋の井草祭へぜひお越しください

期 日：平成16年9月11日(土)・12日(日) 10:00～15:30

場 所：井草高校北校舎2階会場

今年は、開校以来のなつかしい写真を展示します。皆様のお越しを美味しいお茶とお菓子を用意してお待ちしています。11日(土) (10:30～)には、スポーツ・文化部で活動された方々と昼食を楽しみながら、体験談をお伺いする催しを企画いたしました。皆様お気軽にご参加ください。なお、当日頂いたご意見、ご提案等を今後のスポーツ・文化事業活動の企画推進に活かして参ります。なお、準備の都合上、事前に事務局(0120-066-193)までご連絡をお願いいたします。また、遅れおりましたが、50周年記念展にご提供くださった写真を、井草祭終了後お送りいたします。



事業委員長 安田 忠 (21G)

一般寄付金 寄付者名簿

平成16年3月31日現在

平成15年度、下記会員からご寄付を頂きました。有難うございました。全額を有効に使わせていただきます（井草会）。（敬称略）							
高女 1 石田 京子	8	渡辺さき子	3	多賀谷靖子	3	高校17 牛込 仁士	3
未永 京子	10	高校 8 矢口恵美子	1	下条由美子	3	滝沢 政代	3
増沢さだ子	10	植村紫津子	1	小島 治子	3	古尾谷達生	3
大久保京子	8	瀬尾 行弘	4	高校11 小松 温子	3	高校18 石川 陽一	3
岩村トシ子	10	山崎 良子	1	高校12 細野 恭代	3	高校20 野崎 晓	1
高女 3 辻 タケ子	3	前島 一夫	8	長沢 容子	1	渡辺 信行	3
高女 4 阿部 妙子	10	高校 9 杉浦 章子	1	内藤千与孝	3	村田 直樹	8
閔 美奈子	3	山口 直子	3	中林 保彌	3	田中 英明	3
中谷 恵子	3	渡辺 正義	8	八百 洋子	1	橋田ひろみ	3
高校 3 岡田 瑞賀	3	木村 忠正	8	高校13 高富 和子	8	高校21 宮本 静代	8
高橋三恵子	2	渡辺 節子	3	高校14 木村 隆一	5	高校23 田中 隆枝	3
大友 朝子	3	野口 享子	3	松本 洋子	3	原島 幸子	3
高校 4 浅賀 好子	10	高校10 小原 昌子	2	横山喜久江	1	高校24 井上 晴夫	10
岩橋 洋子	10	熊田 隼三	1	高校15 川添 洋子	3	高校25 中庄司敷子	3
高校 6 中島 厚子	3	関口 素子	1	小野 節子	3	高校26 杉野 俊哉	1
高校 7 伊阪美枝子	3	小張 芳男	10	高校16 永井 直実	8	宍戸 鈴子	8
中島 幸子	3	黒田 俊宏	4	尾崎 典子	3	別所 嘉彦	3
合計83名 335,000円 (1口 : 千円で表記)							

母校支援金寄付者名簿

（平成16年3月31日現在）

下記の団体・個人からご寄付をいただきました。心からお礼申しあげます。なお、千円未満の寄付者のお名前はご紹介を省かせていただきました。（敬称略）

学年・組・団体	個 人	10,000以上	野口 篤10D	1,000以上	中村 公3E	1,000以上	渡辺 節子9D	
甘楽グッズ販売寄金	50,000	名方 幸彦	22B	熊谷 和子	15F	近藤 精考	8D	
井草祭募金箱寄金	15,100	20,000以上	隆野 豊子 1	5,000以上	大西 興一	14G	閔 口 素子	10A
8B クラス寄金	38,000	遠矢 良隆	6 A	大西百合枝	14A	織部千恵子	8 E	
十八会（高女4・高1）	30,000	10,000以上	瀬尾 行弘	8 B	清水 麗	3 A	鈴木 安江	3 E
8 D クラス寄金	10,000	永井 直実	16C	本部 滋子女	3	大草 和子	9 D	
その他	4,806	金沢美保子	3 B	小野 直人	44D	浅賀 捷代	10B	
小 計	207,906	大西 久江	5 E	太田 安子女	4	原 京	14G	
		中西利一郎	8 D	沖山 洋子	1	生松 芳郎	25C	
		前島 一夫	8 D	谷 恭子	2 A	青木 真理	33 F	
		矢野 正敏	8 E	谷 明	7 D	山根美智子	先生	
		木村 忠正	9 D	津江 慎弥	10E	吉瀬 眞	先生	
						豊中 朝子	9 C	
合計金額 500,401								
1,000未満 7名								

郵便為替：00120-4-84359

井草会事務局：電話/FAX 0120-066-193

（携帯電話からも掛けられます）

井草会ホームページのアドレスが変わりました!!

会報に載せきれない記事や情報をこちらでご覧ください。

井草会HP ADDRESS：

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~igusa>

編集後記

37号は8ページでお届けします。インターネット活用分科会と連携し、より充実した内容を簡潔で読み易くするよう編集委員一同で工夫いたしました。

会報委員長 中村 公 (3E)

どうぞ皆様の忌憚のないご意見、ご感想を、お寄せください。

『井草会年会費納入』についてのお願い

井草会は、昭和20年3月卒業の1回生以来、今年3月卒業の56回生まで、会員は20,700余名の大きな組織になっております。

井草会の活動資金は、ご承知の通り、会員の年会費と新卒業生の入会金で賄われておりますが、会員数の増加にも拘わらず会費収入の方は、残念ながら、ほぼ横ばいで推移しております。

井草会は、「井草会報」の発行（年1回）をはじめ、隔年開催の「同窓会」、井草祭への参加、母校生き残りのための支援活動などを柱として、日常活動を行っておりますが、支出費用が年々増加し、井草会の財務内容を大きく圧迫しております。費用増加の要因の一つには、会員数増加に伴う会報の発行と発送に関わる費用が年々増加していることが、先ず挙げられます。二つ目は、学校の警備体制が昨年から無人（機械）警備に切り替わり、土・日に開催する合同委員会、理事会等の会場を外部施設（有料）に依存せざるを得なくなったこともあります。さらに三つ目は、昨年度からスタートした母校支援活動のための費用の増加です。この活動費は、寄付で賄うことを原則としておりますが、募金が目標額未達成の場合は会の年度予算からの補填が必要となるためです。

上述のような井草会の窮状をご理解いただき、年会費未納の会員の方々には、是非とも会費の納入にご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

名簿・会費委員長 新井 雅晴

母校支援へのご協力を !!

昨年度から、母校の進学率向上のための土曜補習と国際交流事業を支援するために、年間50万円の募金をお願いしています。昨年度は、皆様のご支援をいただき、同窓会パーティ等の機会等をとらえ、無事目標を達成いたしました。今年も、どうぞ、目標達成できますように皆様のご協力を、よろしくお願い申しあげます。

なお、募金についての詳しい内容については、同封の井草会報第37号（第1ページ）の記事をご覧ください。

振込先口座名は下記の通りです。

東京三菱銀行 恵比寿支店 普通預金 1466396
「井草会 母校支援金」



広報委員長（母校支援募金担当） 隆野 豊子

